

○菊地恵一委員長 続いて無所属の質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて五分です。中島源陽委員。

○中島源陽委員 村井知事が平成七年に県議会議員初当選した頃、私は大崎の県事業でもありました東北学推進事業の大崎地域の実行委員長をやっております。県事業でもあって、地域の皆さんと県の職員の皆さんと市町村の企画の皆さんでけんけんがくがくやって、事業規模四千万円だったと思うのですが、百以上のアイデアの中から六つか七つに絞り込んで、一年かけて地域を元気にしようという事業に取り組みさせていただいたことが、非常に私、県との関わりの中では心に残っています。それはやはり一つの目的を達成するために、けんけんがくがくであってもゼロベースからしっかりと議論を積み重ねていって、お互いの心が本当につながったなど、一緒になったなという思いで一年間みんなで汗をかいていったことが事業としての成功、そしてそのことは今、十年、二十年たってもいろんなところに当時まいた種は、芽となって花となっていていろんなところで活躍をしている姿に現れているというふうに思っています。そういう意味で、全く違う世界かもしれませんけれども、宿泊税が今回可決をされて事業として今後進んでいくとすれば、やはりしっかりと思いを一つにしていくことは極めて大事だというふうに思っております。そういう意味で心と心をつないでいくという、この価値観について知事のお考えをお聞きしたいと思います。

○村井嘉浩知事 これに限らずどのような事業をやるにしても、やはり行政と県民の皆さんがしっかりと信頼関係で協力しあえるというような思いが共有できなければ、何も前に進むことができないというふうに思っております。「民信無くば立たず」というのはまさにそのとおりだと思っております。私は、まずはインバウンドで東北は一・五％程度、宮城は〇・五％しかインバウンドが来ていないと、これを何とかしなければいけないという非常に危機感で、やはり東北の中の中心である宮城・仙台が核となつてという思いがあったのですが、なかなかその思いがまだしっかりと伝わっていないなかつたなというふうに思っております。中島委員のおっしゃるとおりだと思いますので、今後、心をつなぐように更に努力してまいりたいと思います。

○中島源陽委員 ぜひお願いをしたいと思えますし、ただ、ここまでの質疑の知事の回答や部長の答弁を聞いていながら、説明会を今、もうやり出していますけれども、あと

訪問もしていただいでいて、更にはその声を聞いていろんな改善というんでしょうか、修正をどんどんしていただいでいるということで、それは一つの要素としては重要なことだと思います。しかしながらやはり、今、知事も大事だというふうに言っていたように、そういう環境を整えていくことと心をつなぐということは、また僕は違う世界があるというふうに思うんです。それは知事が、今もまだ私の思いが十分伝わっていなかったところがあるというふうにおっしゃったように、そのところは職員の方々が非常に今一生懸命回っていただいでいるのは、すごく感謝したいと思うし敬意を表したいと思うのだけれども、やはり知事自身が直接心を触れ合う場面を知事側からつくっていかないと。それは本当にお互いの心がつながるということにはならないし、それが整っていかないと、今回、導入推進費が出てきて、今後もどんどんそういう予算が出てくるのだらうと思うのですが、そのところ知事自身からしっかりと心をふれあう部分を僕はぜひつくっていくべきであるなというふうに思っておりますので、この点について最後知事の所見を伺いたいと思います。

○村井嘉浩知事 私自身がそういう思いを持って行動しなければ、当然職員に気持ち伝わらないですし、幾ら職員が頑張ってもなかなか評価されないというのはそのとおりだと思います。できるだけ努力をしたいと思います。正直、本当に今、いろいろ全国知事会の仕事もあって大変なんですけれども、ただそれを理由にはできないと思っておりますので、しっかりと努力をしてまいりたいと思います。

○中島源陽委員 終わります。よろしくお願いします。